

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 発達障がい支援総合推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会特別支援教育課 電話番号：058-272-1111(内8690)
発達障がい教育係

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 727 千円 (前年度予算額：2,217 千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,217	623	0	0	0	0	0	0	1,594
要求額	727	0	0	0	0	0	0	0	727
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

①就労支援コーディネーター事業に関して

- ・「障がい者就労・生活支援センター」（なかポツ）に高等学校卒業生から就業後の相談が一定数あり、その多くは在学中に障がいに関しての自己理解が十分に進んでいないケースである。
- ・なかポツは卒業後の支援サービスであるため、障がいがあり就職後の不安がある生徒や、困り感のある生徒に対し、在学時からのアプローチは難しい。

②高等学校における通級による指導に関して

- ・国として「高等学校における通級による指導」について拡充傾向であり岐阜県も早期に全県で巡回型を整備・実施したい。
- ・現在の岐阜県の「高等学校における通級による指導」は、特別支援学校籍教員に頼っているため、高等学校教員で指導できる教員の育成が必要である。
- ・受講生徒の進路支援について専門的知識を有する立場からの支援が必要なケースが出てきている。

(2) 事業内容

①就労支援コーディネーターの業務

- ・自校型通級による指導の対象校6校[山県、華陽F、東濃F、東濃、不破、飛騨高山]への巡回支援（企業情報の提供、進路講話の実施、企業見学の企画）
- ・要請のあった高等学校への支援
- ・発達障がいスーパーバイザー、通級専任教員との連絡会の実施
- ・就労支援推進企業の開拓（サポーター企業の新規開拓、登録業務）
- ・特別支援学校間の連携推進

②発達障がい支援スーパーバイザーの業務

- ・通級専任教員への定期的な指導・助言
- 自校型通級による指導 対象校 山県
- 巡回型通級による指導 拠点校 岐阜北 岐阜地域
- 拠点校 関 美濃地域・可茂地域
- ※可茂地域で令和6年度開講を目指し、準備を行う。
- ・巡回型通級による指導実施地域の高等学校（訪問校）に対する教員研修の講師

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

高校通級体制強化事業

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	300	発達障がい支援スーパーバイザー 指定校指導助言・巡回指導
旅費	217	発達障がい支援スーパーバイザー旅費、支援員研修会旅費 就労支援コーディネーター旅費（企業訪問・拠点校訪問）
消耗品費	210	用紙、コピー代
合計	727	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・新子どもかがやきプラン（平成29年3月策定）
- ・第3次岐阜県教育ビジョン（平成31年3月策定）

(2) 国・他県の状況

平成30年度から通級による指導の制度化

- ・高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（文部科学省調査研究協力者会議報告 平成28年3月）
- ・学校教育法施行規則改正（平成28年12月）
- ・高等学校学習指導要領改訂（平成29年3月）

(3) 後年度の財政負担

・各圏域で設置するため、先発校の費用負担は数年後解消し、事業費の増嵩を抑えて実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県立高校で実施する授業であり、県で実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ・「高校学校における通級による指導」は、すでに自校型・他校型を開始し、令和4年度から巡回型の準備を開始した。令和5年度から岐阜・美濃地域で巡回型の先行実施をするとともに、他地域での巡回型の準備を進める。早期に全県的に発達障がいのある生徒一人一人のニーズに応じた、よりきめ細かい教育を提供できる体制を整える。
 ・特別支援学校に配置されている就労支援コーディネーターが高等学校における障がいのある生徒への就労支援を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

学校・生徒個人のニーズに応じて通級による指導の受講を検討するため、指標の設定は適切でない。
 学校・生徒個人のニーズに応じて就労支援の方法等を検討するため、指標の設定は適切でない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	高等学校における通級による指導について、すでに華陽F（自校型・他校型）、不破（自校型）、東濃（自校型）で実施。東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）で翌年度の開講を目指し、準備。これらの学校に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。
令和3年度	東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）を開講、山県（自校型）で翌年度の開講を目指し、準備、これらの学校に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和4年度	東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）、山県（自校型）に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。巡回型の準備を開始、拠点校の岐阜北高校、関高校にも、発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校へ進学後も引き続き困り感を抱えている生徒が増えており、切れ目ない支援を行うための新たな学びの場を整備する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援スーパーバイザー派遣校での、講座実施の統一化や教員の資質向上が図れた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回型を全県で実施するには、一度には難しく、数年を要する。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・「高等学校における通級による指導」のニーズは高く、早急に自校型・他校型・巡回型の通級による指導の体制を充実させる必要がある。また、指導できる教員の育成が必要である。 ・高等学校における、障がいのある生徒の就労支援については一定のニーズがあり1・2年次(学年)からのゆるやかな支援を進めていく必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・巡回型通級による指導において、岐阜地域・美濃地域に加え、可茂地域でも令和6年度の開講を目指し、令和5年度は準備を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例: 人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位: 千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--